

2017年12月実績概要（メモ）

（2018. 1. 25）

主要石化製品(18品目)の2017年の年間生産は、全ての品目が前年を上回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 577, 200トン

前月比 +2.8% (+15,600トン)
前年同月比 ▲0.5% (▲2,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+3.3%	—
定修要因等	—	—
能力増減	—	—
稼働率変動	▲0.5%	▲0.5%
生産増減率	+2.8%	▲0.5%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月98.3%→当月97.8%←前年同月98.3%

定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月なし

2017暦年生産量 6,531.1千トン、前年比+4.0%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数増とともに定修もほぼ終了したことからHD、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、SBR、ベンゼン、キシレンなどの15品目がプラス。LD、EOの2品目は稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因等からHD、PS、MMAモノマー、EO、EG、BR、ベンゼンなどの9品目がプラス。LD、PP、AN、SBR、トルエン、キシレンなどの8品目は稼働率要因他からマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、LDは稼働率要因からマイナスとなった。HD、PP、PSは日数の増加とともに定修規模差や稼働率要因からそれぞれでプラスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からHD、PSはプラス。LD、PPはマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年末休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少もあり、ポリオレフィン3樹脂ではマイナス。PSは12月としてはやや多めの出荷となり前月を上回った。

前年比では、LDでは主用途のフィルム分野で出荷減が見られたが、ラミネート分野等の出荷が増加、PSは包装用の出荷が減少したが、FS分野での出荷増加もあり、いずれも前年を上回った。HD、PPはほとんどの出荷分野において減少が見られマイナスとなった。

ハ) 輸出

国内向けへの出荷が中心となっている状況にかわりはなく、前月比ではHD、PPが若干のプラスとなったが、LD、PSはマイナス。前年比ではPSを除く3樹脂でマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PPで増加、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、PSは前月並み、HD、PPはやや上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PSはほぼ適正範囲、PPはタイト気味となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		11月末	12月末
LD	+ 3,700	3.1	3.1
HD	+16,000	2.6	2.9
PP	+ 9,200	2.5	2.6
PS	▲ 1,000	1.4	1.4

以上